

# 職人の技を継ぐ (一)

## 小舞職人

### 触ってみてください



違いがわかりますか？左のかんなくずは大工さんがかんなで削ったものです。右は同じ木材を自動かんな盤で削ったものです。薄さ、手ざわりの良さは、大工さんでなければ出来ないものです。また、自動かんな盤で削ったものは、木材の繊維がつぶれていることが見えます。(ルーペをのぞいて下さい)

### 生徒実習作品



まず、墨付けで心や継手の形をとり、そのあと、のみで仕上げます。加工に要した時間(授業)・・・9時間

## 継手かま継ぎ プレカットによる加工

プレカットはコンピューターに連動した機械(CAM)が、継手加工します。

一つの継手加工 (1分以内)



土壁の下地となる竹を組んだものを小舞壁といい、丸竹、割竹そして縄によって組んでいきます。熟練した小舞職人で据める壁は、1日8坪(27㎡)

## 現代の壁下地



間柱の上いきなりパワーボードを張り、室内仕上げはせっこうボードで内部に断熱材をつけて、クロスで仕上げます。

1軒約2日で出来ます。



## 左官職人

左官は塗って壁を仕上げるもので、機械化は出来ません。この種類も塗り方や場所によって様々にあります。



## 在来工法から工業化へ

在来工法というのは、柱や梁・桁を大工さんの加工した継手で接合して建てていく日本の伝統的工法です。1軒分の骨組みを造るまで熟練した技術によっては1か月の時間と手間がかかります。現在は、木造住宅といっても骨組みが鉄骨、あるいはパネル、また2×4工法など多様になってきていますが、いずれも熟練した技術はより工業的につくられるのです。松山市においても工業的工法によって建つ住宅の方が職人の建てる家より多くなりました。その結果、大工は減り、在来工法はますます少なくなっています。

### 小舞職人の減少



# 職人の技を継ぐ(二)

## 何故職人が減っているのか

### 人々のライフスタイルの変化

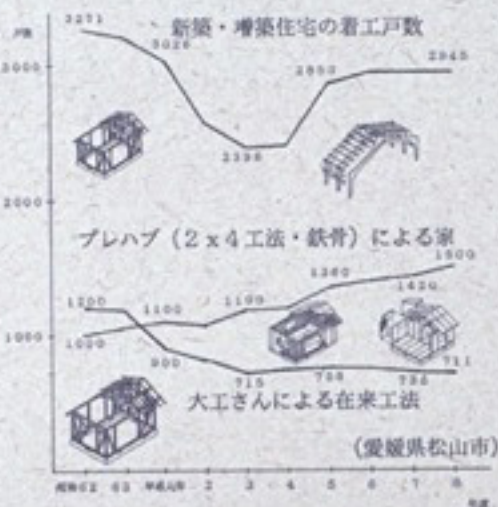
- ・「和風」「良い木」「骨組みがしっかりしている」というような家への要求がなくなってきた。
- ・表面の美しい形のよい家好まれるようになった。
- ・維持が簡単な造り方が求められている。(障子の張り替え、畳の表がえ、雑巾がけなどの 仕事がいやがられる。)

### 職人の高齢化後継者不足

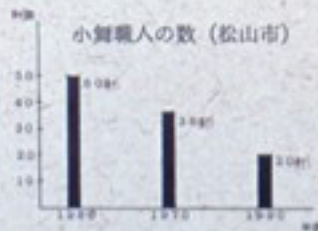
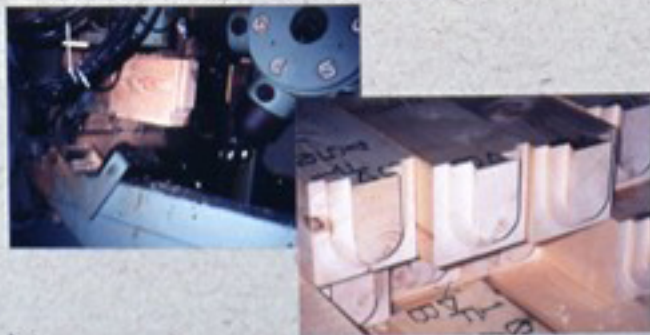
- ・若者にとって技能を習得する年月が長すぎる。(大工修業の様子)
- ・3K(きつい・汚い・危険)のイメージが強く賃金が安い。
- ・構法が簡単になってきている。

### 職人が建てる家の注目が無い

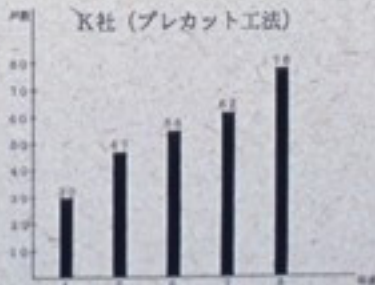
- ・職人の減少により需要が間に合わなくなってプレハブやプレカットになってしまった。
- ・熟練した、技術、技能を必要とする仕事機械化されている。
- ・若者に好まれるモダンな家に大工では対応できない。
- ・表面からは職人の技術や技能の良さが見えないので、見栄えのよい工業化住宅や2×4工法、プレハブなどが増えている。



コンピュータと機械が運動して継手や仕口をつくっている



30年間で小舞職人の数は1/3近くに、なりました。



在来工法でも継手や仕口を機械で加工するプレカットが確実に増えています。



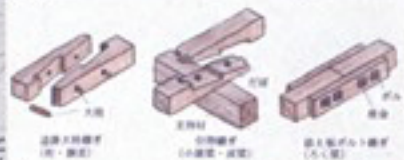
# 職人の技を継ぐ(三)

手と道具で作るものは文化だ



大工さんの話

腕のいい大工がかなを引くと板よりもかなくずの方が長くなるんです。3尺の板を削ると削りくずは3尺より長くなります。それは材木が生きているということなんです。いい腕といい道具があってこそ木を生かすことができるのです。これは機械では絶対できないんです。



いろいろな人が生かされる

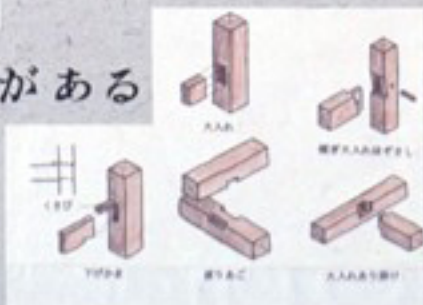
機械（プレカット工法）では1軒分35坪の継手・仕口を1日で出来ず。大工さんが従来の工法でやると35坪の家は墨付け加工に約1カ月はかかります。ゆっくりと木を削り、見るからその植打がわかり大きな柱から山で林業をする人の苦勞がわかり、山の人が生かされるのです。

手間と時間をかけることで全ての人が生かされるのです



隠れたところに技がある

日本の家は隠れたところに技があるのです。小割に編んだ竹も土壁も継手や仕口も家ができてしまうと隠れてしまいます。同じ柱の柱といっても50年でとった木も100年でとった木も表面には同じ太さです。その価値がわからなくなってきているのです。



風土と住まい

美術館の収蔵庫の内部はどうしても杉の材でなければならないのです。木は生きています。

土壁は湿気を吸って健康でよい環境をつくり出します。

現代は環境を機械で作りだしています。その影響が、不健康になり、自然破壊をもたらしているのです。



# 職人の技を継ぐ (四) 日本職人大学

建築大工コース



## 偏差値だけが全てではない

### 誰でも入学できる

入学を希望するものは国籍、学歴、男女を問わず入学できる。ただし、この仕事を身を立てる決意を誓約しなければならない。

### 授業料無料

大学は4年生が建築して得た資金で運営される。日本国は一定量の仕事をこの大学に与えなければならない。

### 技能習得が進級の絶対条件

各学年、各段階における技術試験に合格しなければ、次の段階へは進めない。

1 学年

#### 建築基礎

墨付け、木材加工、のこ、かんがけなど

2 学年

#### 建築軸組

柱・梁・桁の大きな軸組を作る

3 学年

#### 建築外部仕上

外部仕上げの下地及び屋根・左官など大工以外のことを学ぶ

4 学年

#### 建築現場

実際の建築現場において大工技術・技能の習得

昔の徒弟制度では弟子の期間7年一人前になるまで15年かかりました。

## 全国の職人さん集まれ! あなたの技が未来へ

### 大工教授が科学的に指導する

「技は盗み取れ」とか「根性がすべてや」というような非科学的な指導法でなく、大工教授も教育法や若者の心理も勉強し、合理的、科学的に職人の技を伝えます。

### 国家認定 就職と賃金の保障

学習内容は日本各地から集まった棟梁や大学教授によって吟味決定され修了卒業した学生には **大工学士** の国家資格が認定されます。

### 棟梁大学院制度

より高度な技能、国際的時代における建築文化の向上のため、棟梁大学院制度も設けられている。

卒業後は大工としての就職及び日本全国共通の賃金が保障される。